

[特集] トイレマナーと トイレトレーニング

今年、犬の尿が原因で鉄製の信号柱が倒壊したというニュースがあり、多くの愛犬家を驚かせました。今、新しいトイレマナーが社会的なニーズになっているのではないのでしょうか。愛犬のトイレマナーとトレーニングについて、あらためて考えたいと思います。

監修・内田恵子

うちだ・けいこ●獣医師。麻布大学獣医学科卒業後、日本歯科大学病理学教室を経て荻谷動物病院グループ勤務。2012年1月より同院統括院長に。2016年退職。内科、神経病、行動学を中心に、脳と心の治療の研究がライフワーク。

協力：芳賀晶子 イラスト：フジサワミカ (p.6、p.7、p.9、p.10)

犬のオシッコが原因で
信号柱が倒壊？

今年2月、三重県鈴鹿市の交差点で、鉄製の歩行者用信号柱が倒れる事件がありました。現場周辺は犬の散歩コースになっており、犬の尿が繰り返しかけられたことで柱の根元の腐食が進んだ可能性が高いということです。

ニュースによれば、「三重県警科捜研の調査によると、倒れた柱の根元からは、同じ交差点にある別の信号柱の約42倍の尿素を検出。鉄製の柱の耐用年数は約50年ですが、設置されてからわずか23年しか経過しておらず、犬の尿に含まれている尿素や

塩分が柱の腐食を早めた可能性が高いと分析されました」とのことです。

オシッコのあとに
水をかけても意味はない？

このニュースに対して、「オシッコをしたら水で流せば大丈夫ではないのか」という声があげられたようですが、多数の犬が、同じ場所にマリーキングし、毎日繰り返しされることによつて、鉄の腐食を進めることになり可能性があるということが伝えられていました。

内田先生にお話を伺ってみると、オシッコのあとに水を流すのは勧められるマナーではないようです。水

かけは犬のオシッコのおいを消すために始まったと考えられますが、少し水をかけただけではオシッコのにおいは消えず、乾いてしまえば跡が残りますし、犬の嗅覚では、わずかなにおいでも感じることでしょ

う。今、考え直したい
犬のトイレマナー

公道などに、飼い犬のウンチを放置すると、軽犯罪法や廃棄物処理法、自治体による条例などによつて罰せられることもあります。法令や条例を守ることは当然のことですが、義務がなくても飼い主の責任として、近隣の住民や通行人に迷惑がから

ないように心掛けなければいけません。

自分の家の前でオシッコやウンチをされれば、誰でも不快になります。**「愛犬にオシッコやウンチをさせるために散歩に連れていく」という飼い主は決して少なくないと思われま**すが、愛犬のトイレマナーについて、今一度、考え直さなければならい

のではないのでしょうか。

近年における感染症対策や公衆衛生の観点から、都市部において、「自宅で排せつを済ませてから散歩に行く」「コマンドで排せつできるようトレーニングしている」という愛犬家も増えてきています。

新しいトイレマナーを身につけよう

すぐに実践できる 散歩中の トイレマナー 3つのポイント

今求められているのは、「自宅で排せつを済ませてから散歩に行き、むやみに道路などで排せつさせない」という新しいトイレマナーです。

①

排せつ物を適切に処理する

- 散歩中は、愛犬をいつも見ていて、排せつのタイミングを見逃さない。
- 愛犬の排せつ物は必ず持ち帰る。

②

犬から目を離さない

- 散歩中においを嗅ぐのは犬の習性。草むらなど、においを嗅いでいい場所を決めておく、ほかの犬がマーキングしていそうな

場所には近づかせない。

- 犬は車道の反対側を歩かせ、信号などで立ち止まるときは座らせる。

スマートフォンを片手に散歩している方が見受けられますが、犬が排せつしていることに気づかないことがありますので、注意しましょう。

③

社会的なモラルを守る

- 道路や公園など公共の場所は汚さない。
- 愛犬が勝手にあちこちでにおいを嗅がないように、リードでコントロールして、同じ場所で繰り返しマーキングをさせない。
- ほかの人が近くにいるときは、リードを短く持って愛犬の動きをコントロールする。

道路や公園などで 排せつした場合の処理方法 【オシッコ】

トイレットペーパーやトイレシートを地面に当てて尿を吸い取り、ビニール袋に入れて自宅に持ち帰る。



【ウンチ】

できるだけ便が地面に落下する前にトイレシートや紙などで受け止め、ビニール袋などに入れて持ち帰る。受け止め損ねた場合は、きちんと拾い、跡が残らないようにトイレットペーパーなどで拭き取り、自宅に持ち帰る。

※持ち帰った排せつ物やトイレシート、ビニール袋などは、自治体のルールに従って適切に処理するようにしましょう。

※便をトイレに流す場合は、トイレシート片、小石、砂、草、ビニールなどが混じっている場合は、配管が詰まる原因となるため、トイレに流さないよう注意する。



信号待ちなどでは、愛犬を座らせて、コンタクトをとって目を離さないようにしましょう。



散歩中も飼い主が愛犬を適切にコントロール。他の犬がマーキングしていそうなところへは近づかないようにしましょう。

散歩中の排せつは、犬にとって自然な行動

「自宅で排せつさせたいが、外でしか排せつしてくれない」「外へ行かないと排せつしないから、天気の良い日も散歩に行かなければならない」と嘆く飼い主は多いのですが、犬の習性を考えると、それは当たり前

の行動といえます。犬は自分の寝床を清潔に保とうとする動物です。また、犬は自分のオシッコで縄張りを主張し、ほかの犬のオシッコのにおいを嗅いで相手の情報を得ようとしています。そのために散歩中、犬はあちこちにおいを嗅いで

はあちこちに少量のオシッコをかけるのです。この行動を「マーキング」といいます。

犬にとって、散歩中においを嗅ぎ、排せつするのは自然な行動であると言えます。



マーキングには、「ここに来ました」と自分自身の存在を周りにアピールする意味がある。

「トイレ目的の散歩」から「楽しむための散歩」へ
しかし、このまま続けていたのでは、また信号柱や柵などが倒れかねません。公衆衛生上も問題になりま

すし、地域の人間にとっては迷惑行為になります。また、家の外でしか排せつしない犬の場合、散歩に連れ出す極限までオシッコを我慢して、膀胱炎などの泌尿器系の病気になることもあります。

さらにもう一つ盲点として、飼い主の意識として「排せつが終わったから散歩は終わり」と考えてはいな

いでしょうか。犬の方も、オシッコをしたら散歩がすぐ終わりになるのを予測して、なかなか外で排せつしない犬もいるくらいです。犬は散歩が大好きですが、排せつのための散歩だけでは、散歩を十分に楽しめないでしょう。本来、散歩と排せつは別のものです。散歩をもっと楽しむためにも、排せつは前もってさせた上で、運動や気分転換をすることも目的にして、たっぷりと散歩を楽しむようにしたいものです。

排せつとマーキングは区別して考える

そこで提案したいのが、「排せつ（排尿）とマーキングを区別して考える」ということです。

排せつとは体の中から不要なものを排出することで、生理的な現象です。排尿と排便があり、食事や飲水の量により排せつ物の量は変動します。

尿意は、寝起きや運動後、飲食後、緊張しているときなどに感じやすく、前回の排尿から時間がたっているほど量は多くなります。外でする排せつ習慣のある犬は、早朝から散歩を要求しがちです。オス犬は片方の後ろ足を高く上げて排尿し、メス犬、子犬、足腰が弱くなった犬は腰を地面に近づけた姿勢を取ります。オス犬もこの姿勢を取ることがあり

ます。一方、マーキングは排せつよりも量は少なく、自分の存在や縄張りを主張するもので、本能的なものです。できるだけ高い位置にオシッコをかけて自分をアピールしようと、片方の後ろ足を上げてマーキングします。中には逆立ちしてマーキングする小型の犬や、足を上げてマーキングするメス犬もいます。

マーキングするときは、あちこちにおいを嗅ぎながらオシッコをかけて回ります。量はほんの少して、1滴も出ていないときもあります。飼い主が愛犬のことをよく理解し、排せつとマーキングを区別して考えれば、対処法も見えてきます。

排せつは自宅で済ませ、マーキングを管理する

社会に迷惑をかけずに、飼い主と犬が安心して暮らしていくためには、排尿や排便、マーキングをうまくコントロールする必要があります。

排尿や排便については、できるだけ自宅で済ませるようにしましょう。外でしか排せつしない場合、トイレトレーニングのやり直しは簡単ではないと思いますが、次ページ以降で説明するような方法で排せつをうまくコントロールできるようにな

ると、さまざまなメリットが得られます。ぜひ挑戦してみてください。マーキングについては、リードでうまく愛犬をコントロールすることが大切です。マーキングさせたくない場所で、愛犬を自由にさせていると、あちこちにおいを嗅いでマーキングして回ることになりますから、ほかの犬がマーキングしているようなところ、信号柱や電信柱、ポスト、ガードレールなどの根元には近づけないようにしましょう。

「ワンツーワンツー」がキーワード。 コマンドを使ったトイレトレーニングを始めよう

ここでは「ワンツーワンツー」というコマンドで排せつできるよう教えていきます。子犬のうちから教えるのが理想的ですが、成犬になっても可能です。成功の秘訣は、コマンドをかけるタイミングと、ほめるタイミングです。

ステップ 1 犬がオシッコをしているとき、小さな声で「ワンツーワンツー」と繰り返し声掛けし、オシッコが終わるまで続けます。オシッコを終えたらよくほめましょう。
この段階では、犬は何を言われて何をほめられているのか、まだわかっていません。

ステップ 2 ステップ1をオシッコのたびに繰り返します。1週間ほど続けましょう。
飼い主の就寝時や不在時はしなくてもかまいません。

ステップ 3 犬がオシッコしようとしたら、「ワンツーワンツー」と声をかけ続け、オシッコができたらくほめましょう。ほめた後に好きなおやつやおもちゃを与えたり、散歩に連れ出したりすればより効果的です。
ステップ1ではオシッコの最中にコマンドをかけますが、次第にコマンドをかけるタイミングを早め、ステップ3ではオシッコをする前にコマンドをかけるようにしましょう。そうすることで犬は徐々にコマンドの意味を理解していきます。

ステップ 4 ステップ3をしばらく続けます。



※店内では、万が一のマーキングに備えて、マナーパンツをはかせると安心です。

ステップ 5 しばらく続けたら、お出かけの際に実際にトライしてみましょう。たとえば車で出かけたときは、犬がオシッコしたくなるタイミングで車を止め、トイレシートを広げて犬をケージから出し、「ワンツーワンツー」と声をかけます。オシッコを我慢していた犬がオシッコをしたら、よくほめましょう。その後、大好きなおもちゃで遊ぶなどするとより効果的です。

ステップ 6 ドッグカフェやドッグランでもトライしてみましょう。入店・入場前に犬用トイレに連れて行き、トイレシートを広げて「ワンツー」と声かけし、うまく排せつできたらよくほめて、特別なおやつなどのごほうびを与えましょう。

ステップ 7 いろいろな場所、いろいろなシーンで、同じコマンドで排せつする練習を続けましょう。トイレシートとコマンドで排せつする練習を日常的に続けていくことで、コマンドでのトイレが習慣になります。

愛犬に排せつの コマンドを教えよう

愛犬自身にも、飼い主にも、
そして公衆衛生上もさまざまなメリットがあるのが、
コマンドを使ったトイレトレーニングです。

コマンドでの排せつには
メリットが多い

トイレシートの上で排せつするようにつけている飼い主は多いと思いますが、そのしつけをもう一歩進めてみましょう。飼い主のコマンドで愛犬の排尿や排便を促すことができるようになると、愛犬との暮らしがより快適で便利なものになります。

コマンドの利点 4 力条

●愛犬の健康を守る

外でしか排せつできない犬、あるいは決まった場所では排せつできない犬は、悪天候が続いたときや、愛犬や飼い主の体調が優れないとき、長距離移動する場合などは、どうしても排せつをさせるタイミングが遅れてしまいます。犬は人間よりも排せつを我慢できる動物ですが、我慢のさせすぎは膀胱炎などの泌尿器疾患を招くことになります。

その点、コマンドで排せつすることができれば、タイミングを見て排せつさせることができ、愛犬には我慢させずに済みます。

●お出かけしやすくなる

ドッグカフェやドッグランなどの施設を利用するときは、その前に排せつを済ませるのがマナーです。コマンドで排せつできるようにしつけていれば、粗相の心配なく楽しい時間を過ごせるでしょう。

また、長時間、車や電車で移動する場合も、サビズエリアで休憩するときや電車の乗り換え時など、タイミングをみて排せつさせることができ、安心して愛犬とお出かけできるようになります。

●災害時の備えとして

災害時の避難生活では、飼い主と愛犬が離れて過ごさざるを得ないことも多いものです。愛犬はいつもと異なる環境で過ごさなければならず、排せつのためにタイミングよく外に連れ出すことが難しいこともあるでしょう。

このようなとき、せめてコマンドで排せつできるようにトレーニングしておけば、排せつを我慢せずに済みます。それで飼い主も愛犬も、少しでも気が楽になるのではないのでしょうか。

●粗相して汚すことがなくなる

排せつの我慢が限界を超えると、時間や場所に関係なく粗相してしまい、いろいろなところに迷惑をかけることになります。そのようなことを避けるためにも、コマンドで排せつをコントロールできるようにしましょう。

photo by damedeeso/iStock

成功する トイレトレーニング

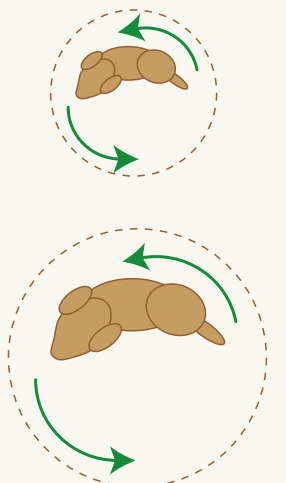
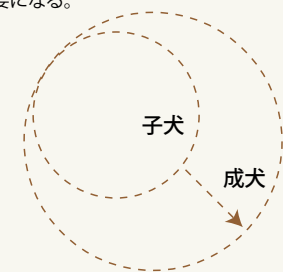
愛犬のトイレのしつけを成功させるポイントをご紹介します。トイレのしつけがうまくいっていない場合は、自分のやり方を一度振り返ってみましょう。

失敗しにくい 理想的なトイレとは

トイレトレーニングを成功させるために大切なことは「環境を整えて失敗を経験させない」ことです。そこで重要になるのが、失敗させないためのトイレの環境づくりです。とくに次の点に注意しましょう。

- トイレが狭いと粗相の原因になるので、トイレの中で犬がぐるぐる回れるくらいの広さを用意する。
- トイレの周りに囲いを設置すると汚れにくく、はみ出しにくくなる。囲いは犬が跨げる程度の高さでよい。
- 犬は寝床から離れた場所に排せつする習性がある。ハウスとトイレはできるだけ離す。
- オス犬の場合は、トイレの奥に適當な大きさの棒を立てると効果的。棒にトイレシートを巻き付けるとよい。
- トイレシートが汚れたらすぐに交換し、常に清潔を保つ。

成長にともない、サークル内とトイレ、ハウスの大きさを広く、大きくする必要がある。大型の犬種では、何倍も広げることが必要になる。



必要最低限のトイレ面積は、排泄前にぐるぐる回れること。体格に合わせるが大切。

トイレ面積に合わせて、シートのサイズや枚数を組み合わせるとよい。



トイレの掃除のしやすさも大切。小さいシートは、汚れたものだけを取り換えやすい。大きなシートは、隙間から漏れる心配が少ないと言える。

迎えた日から始める子犬のトイレトレーニング

子犬のトイレトレーニングで大切なことは、「犬を家に迎え、環境が変わったそのときから始めること」、そして「叱らないこと」、「ほめること」、「根気よく続けること」です。リビングの隅などにサークルを置いてハウスの位置を決めたら、サークルの床全面にトイレシートを敷いて犬の到着を待ちましょう。

- ① 犬が到着したらサークルの中にすぐに入れ、しばらく様子を見ます。排せつしたら、ほめてサークルから出して遊びましょう。その間にトイレシートを交換します。
- ② 15〜30分ほど遊んだらサークルに戻し、水や食事を与え、休ませます。
- ③ 排せつしたらほめてサークルから出す、ということを繰り返すと、用を済ませれば遊んでもらえることと、足裏の感触でトイレシートの上で排せつすることを覚えます。
- ④ 最初はサークル内のおちこちに排せつしても、徐々に場所が固定していきます。そのようになつたら、使わない場所のトイレシートを少しずつ外していき、最終的には数枚のトイレシートの上に排せつするように誘導しましょう。
- ⑤ コマンドで排せつできるようにす

るときは、トイレシートの上で排せつすることに慣れたときがチャンスです。朝、寝起きにトイレシートの上でぐるぐる回り始めたら、「ワンツーワンツー」などのコマンドを言い、トイレシートの上に排せつしたらほめて、サークルから出します。

⑤ トレーニングを繰り返すうちに、飼い主も愛犬の排せつリズムがつかめてきます。排せつリズムをつかんだら、コマンドを使ったトレーニングも少しずつ可能です。いずれは、サークルの中だけでなく、いろいろな場所、いろいろなタイミングでコマンドを使ったトレーニングをし、毎回ほめてあげましょう。

ステップを踏んだトイレトレーニング

① サークル内に全面トイレシートを敷きます。

② 最初の1〜2週間は、排尿場所がバラバラですが…。③ 排尿場所が次第に固定化してきます。

④ 場所が固定化してきたら、遠くのシートから減らしていきます。

⑤ 少しずつシートを減らし、必要な面積までを残します。

⑥ 成長に合わせて、サークル内を広げて、トイレスペースを離すと、留守番も快適に過ごせます。

正しくトイレができるようになったら、サークルのドアを開けておくこともできます。

3面をサークルで囲み、入口に低いフェンスをつけます。

※室内での粗相は飼い主の誘導ミスと考え、絶対に叱らないことが大切です。一度トイレの外に排せつすると、その場所に残ったにおいが原因で、何度も同じ場所で排せつを繰り返すようになります。粗相に気づいたら黙って愛犬をほかの部屋に連れていき、愛犬が見えないところで始末します。においが残らないように消臭するなど、気をつけましょう。

周囲を低いフェンスで囲むと、トイレと居住スペースが区別できて良い。

外でしか排せつしない成犬の再トレーニング

- 長年、散歩時にしか排せつしない習慣の成犬を、自宅敷地内で排せつするようにしつけ直すことは、簡単ではありません。無理強い禁物ですが、最初からあきらめるのも、飼い主にとっても愛犬にとっても残念な話です。以下のヒントを参考に、「うまくできるようなつたらいいな」程度に考えながら、愛犬とのコミュニケーションを楽しみましょう。
- ① 悪天候の時なども考慮して、トイレとして使いたい場所を決めます。玄関先やベランダ、庭など、外に近いところがいいです。
 - ② トイレトレーを置き、ほかの犬のにおいがついた土や雑草などを置きます。汚れてもいいパネルや棒などを置いてもいいでしょう。
 - ③ 朝起きたときや食後、運動後など、排せつしやすいタイミングでそこに連れていきます。においを嗅いだらよくほめましょう。
 - ④ 排せつできなくても落胆せず、何度でも連れていきましょう。うまく排せつできたときは、さらによくほめて、すぐ散歩に連れ出します。

大型の犬のための汚しにくいトイレづくり

大型の犬の場合、尿量が多いため、トイレシートを敷いただけでは吸収する前に流れて周りを汚したり、しぶきが飛び散って犬の足元も不潔になったりしがちです。さらに足を上げて排尿するオス犬の場合は、飛散防止のパネルなどを設置しないと悲惨な状況になってしまいます。

このようなときは、「トイレシートの上にスノコやメッシュカバーを敷いて犬の足元の汚れを防ぐ」、「トイレシートの下には淵のあるトイレトレーを置いて流れ出るのを防ぐ」、「オス犬の場合は高さのあるパネルでトイレを囲む」などの工夫が必要になります。